



## 老眼が治る可能性

坪田 一男

慶應義塾大学医学部眼科学 教授 Kazuo Tsubota



目のエイジングといえば老眼だ。だいたい名前からして“老いる眼”。40歳以上のすべての人に起こり得る代表的な目の加齢変化である。一般的には老眼は「病気」ととらえられていないかもしれないが、老眼研究会では「何らかの介入が必要な疾患である」と定義している。症状をご存知のとおり“近くが見えにくくなること”。加齢によって水晶体の弾性が減り、レンズのピント調節力が減るために起きる。不便ですよ。でも、人によっては、老眼鏡をかけると年をとった気持ちになるので、極力かけたくないと言う。老眼鏡をかけないで、いつも見えにくいと感じているほうが、目の疲れはもとより心理的にもよくないとも思うが、まあ考えは人それぞれだ。

さて最近、慶應義塾大学のチームから“老眼は治るかもしれない”という画期的な論文が出たので報告したい。数年前から、なんとか老眼を治したいと動物実験を開始した。まずは老眼の動物モデルを作らなくてはならない。

研究員の樋口明弘先生が、ラットに煙草を吸わせると水晶体が硬くなることをまず見つけた。以前から喫煙は老眼のリスクファクターだといわれていたため、これをもとに研究を開始したのだ<sup>1)</sup>。

動物モデルができたので、可能性のある薬剤のスクリーニングをしようということになった。そこで、白内障の予防に使われているピノレキシン点眼などをスクリーニングしたところ、ピノレキシンは白内障予防ばかりでなく、水晶体硬化を抑制することがわかった(図1)。ピノレキシンは、カタリン<sup>®</sup>(千寿製薬)やカリーユニ<sup>®</sup>(参天製薬)として長年眼科医に親しまれている点眼薬だ。動物実験で可能性は出たが、次はヒトで調べる必要がある。老眼の進行は非常にゆっくりであるため、なかなかこれを証明することは難しい。だが、我々は過去に、サプリメントと温熱療法によって老眼が改善する可能性を示していた<sup>2)3)</sup>。ここでわかったのは、老眼の

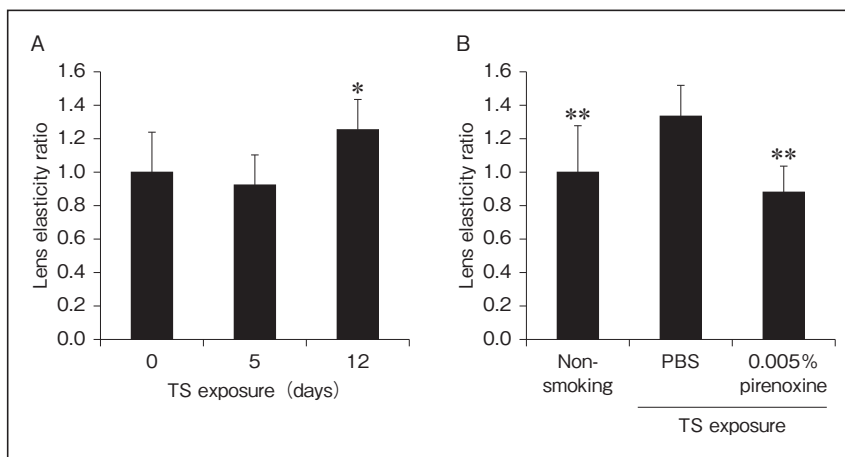


図1. ピノレキシンによる水晶体硬化抑制データ  
ピノレキシンにより水晶体の硬化を抑制できる。\*: p < 0.05, \*\*: p < 0.01

(文献4より引用改変)